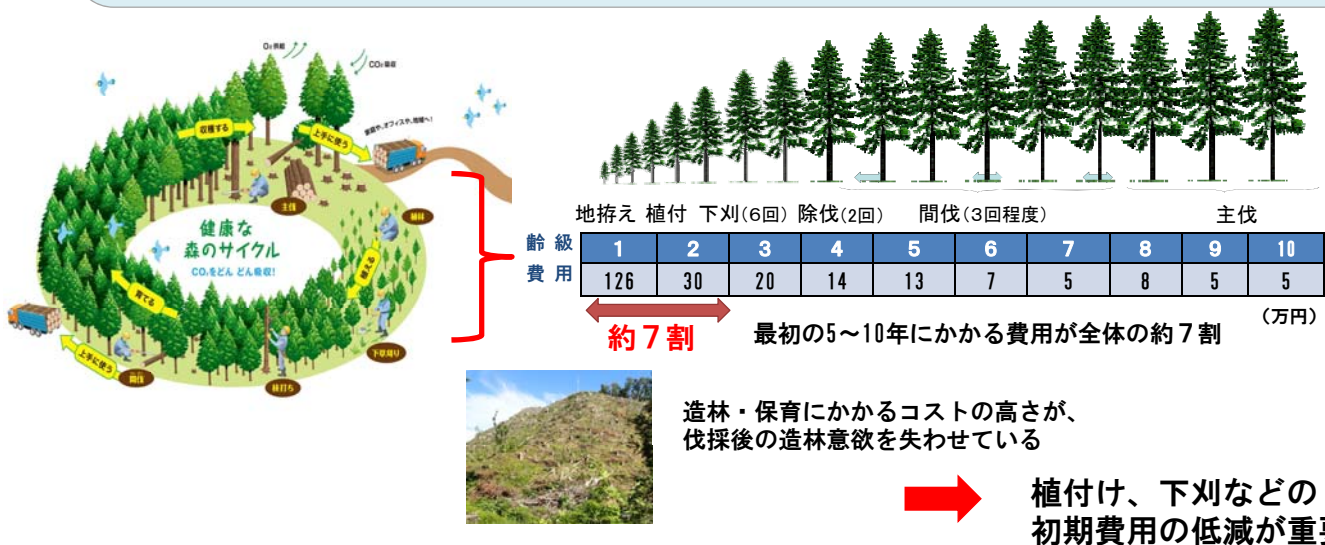


林業の低コスト化に向けた取組

循環経営による林業の成長産業化に向けて、 低コスト造林手法の実証試験に着手します

背景

- 造林費用の負担が大きく、伐採後の再造林放棄が懸念される状況
- 造林費用を低コスト化し、伐採→植栽の循環を確立することが急務
- 造林・保育費用の2割以上削減を目標（平成23年3月林政審議会資料「林業経営の具体像（10年後）」）



【平成26年度の取組予定（実証試験）】

● 植栽本数を大幅に減らし、植付・下刈作業を省力化

植栽本数を従来と比べ5分の1以上減らした低密度植栽を実施し、苗木や植栽費用の削減効果を検証するとともに、下刈作業省力化の実証試験に取り組みます。

※実証試験地：津軽、三陸北部、遠野、最上の4（支）署で新たに設定



● 活着の優れたコンテナ苗植栽の活用

初期成長が早く活着率が良好なコンテナ苗について、雪圧移動による影響等を検証し、多雪寒冷地に適した育苗、植栽、育林手法の改良に取り組みます。

※コンテナ苗植栽試験面積 H25：25ha（7署）→ H26予定：37ha（13署）



● 伐採と再造林作業の一体化

伐採とその後の植付を同時に実施することで、林業機械を活用した地拵やコンテナ苗を活用した植付作業を効率化・低コスト化する手法の実証に取り組みます。

※実証試験地 H25：2.48ha（湯沢支署）→ H26予定：4.38ha（湯沢支署）

